

「見方・考え方」を意識した 授業づくり

～資質・能力の育成に向けた授業改善～

小学校段階

「見方・考え方」を働かせて、深い学びへつなげる授業改善例を紹介します。

○国語科
○生活科
○体育科

○社会科
○音楽科
○外国語科

○算数科
○図画工作科

○理科
○家庭科

今、求められている授業改善とは？

今回の学習指導要領では、これからの時代を生きる子どもたちに求められる資質・能力の育成のために、子どもたちが「どのように学ぶか」という学びの質を重視した改善が求められています。いわゆる「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善です。

これまでの授業改善の取組においても、「主体的な学び」や「対話的な学び」の姿は比較的イメージしやすいため、様々な創意工夫が図られてきました。しかし、学びの深まりにはなかなかつながらないという現状も見られます。

育成を目指す資質・能力を育んでいくには、学びの深まりが重要です。そのためには、「深い学び」が実現できた子どもの姿を捉え、「深い学び」が実現できる手立てを取り入れた授業づくりを行う必要があります。

「深い学び」が実現できた子どもの姿の例

- 思考して問い続ける
- 知識・技能を活用する
- 知識・技能を概念化する
- 新たなものを創り上げる
- 知識・技能を習得する
- 自分の思いや考えと結び付ける
- 自分の考えを形成する

栃木県総合教育センター 『「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善【理論編】』（H30. 3）

「深い学び」の鍵とされているのが「**見方・考え方**」です。子どもたちは、各教科等における習得・活用・探究という学びの過程において、各教科等で習得した概念（知識）を活用したり、身に付けた思考力を発揮させたりしながら、「深い学び」に向かいます。この学びの過程の中で働かせているのが、各教科等の特質に応じた「**見方・考え方**」です。

子どもたちが、どんな場面で、どのような「**見方・考え方**」を、どのように働かせるかを教師が意識し、授業の組み立てや具体的な指導について創意工夫をすることにより、子どもたちの学びは深まっていくのです。

「**見方・考え方**」を働かせながら学びを深めていく

「**主体的・対話的で深い学び**」が実現する

各教科等で目指す資質・能力が育成される



「深い学び」の鍵となる「見方・考え方」とは？

『小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 総則編』には、「見方・考え方」について以下のように説明されています。

各教科等の「見方・考え方」は、「どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのか」というその教科等ならではの物事を捉える視点や考え方である。

「見方・考え方」は、学習指導要領において、これまでも用いられてきた用語ですが、今回の改訂においては、各教科等の「見方・考え方」について改めて明らかにしています。

「見方・考え方」ここがポイント

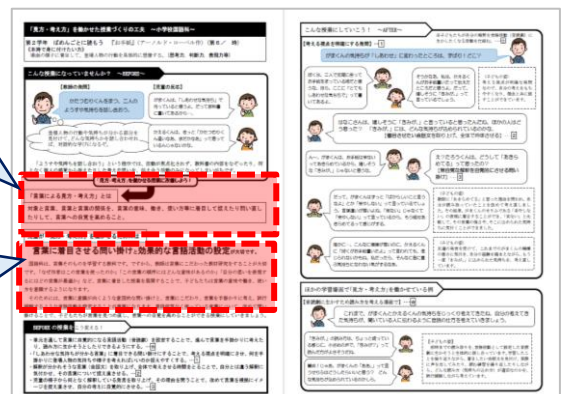
- ・各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら学ぶことが、それぞれの教科等の目標に示されています。
- ・「見方・考え方」は、各教科等の学びを通じて資質・能力を身に付ける過程で、子どもたちが働かせるものです。
- ・「見方・考え方」を働かせることを通して資質・能力が育まれ、それによって「見方・考え方」が更に豊かになるという相互の関係にあります。

「見方・考え方」を意識した授業づくり

次ページからは、子どもたちが「見方・考え方」を働かせて学ぶよう、教師が意識して行った授業づくりの例を紹介します。下図に示した部分で、その教科ならではの「見方・考え方」について詳しく説明しています。

各教科の特質に応じた「見方・考え方」について、「学習指導要領解説」より該当部分を抜き出し示しています。

「見方・考え方」を働かせるために、授業づくりで大切にしたいポイントなどを示しています。



「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校国語科～

第2学年单元名 ばめんごとに読もう 『お手紙』（アーノルド・ローベル作）（第6／13時）
《本時の目標（育成を目指す資質・能力）》
場面の様子に着目して、登場人物の行動を具体的に想像する。（思考力、判断力、表現力等）

こんな授業になっていませんか？

【教師の発問】



かたつむりくんを待つ二人の様子や
気持ちを話し合しましょう。

登場人物の行動や気持ちが分かる部分を見付け、どんな気持ちなのかを話し合わせれば、対話的な学びになるぞ。

【児童の反応】

がまくんは、「しあわせな気持ち」で
待っていると思うよ。だって教科書に
書いてあるから…。



かえるくんは、きっと「かたつむりく
ん遅いなあ、まだかなあ」って思っ
ているのだと思うよ。



「様子や気持ちを話し合おう」という発問では、活動が焦点化されず、教科書の内容をなぞったり、何となく個人の感覚から捉えたりした考えや思いだけを伝え合う活動になってしまいがちです。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「言葉による見方・考え方」とは

対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

言葉に着目させる問い掛けと効果的な言語活動の設定が大切です。

国語科は、言葉そのものを学習対象とする教科です。ですから、教師は言葉にこだわった教材研究をすることが大切です。「なぜ作者はこの言葉を使ったのか」「この言葉の順序にはどんな意味があるのか」「自分の思いを表現するにはどの言葉が最適か」など、言葉に着目した授業を展開することで、子どもたちは言葉の意味や働き、使い方を意識するようになります。

そのためには、言葉に意識が向くような意図的な問い掛けと、言葉にこだわり、言葉を手掛かりに考え、試行錯誤するような言語活動の設定が重要になります。普段何気なく使っている言葉について、改めて問い掛けることで、子どもたちが言葉を見つめ直し、言葉への自覚を高めることができる授業にしていきたいと思います。

授業を こう変える！

- ・单元を通して言葉に自覚的になる言語活動（音読劇）を設定することで、見通しをもって言葉を手掛かりにして考え、音読に生かすことができるようにする。…**[1]**
- ・「しあわせな気持ちが分かる言葉」に着目できる発問にすることで、考える視点を明確にさせ、何を手掛かりに登場人物の気持ちや様子を考えればよいのか捉えやすくする。…**[2]**
- ・解釈が分かれそうな言葉（会話文）を取り上げ、全体で考えさせる時間をとることで、自分とは違う解釈があることに気付き、その言葉の解釈について捉え直す。…**[3]**
- ・児童の様子を観察して無自覚に解釈している発言を取り上げ、その理由を問うことで、改めて言葉を根拠にイメージを捉え直させ、無自覚に働かせている見方・考え方を自覚できるようにする。…**[4]**

このような授業にしていきたいと思います！

【子どもたちが自分の解釈を言語活動（音読劇）に生かしたくなる学習展開の設定】…①

【考える視点を明確にする発問】…②

がまくんの気持ちが「しあわせ」に変わったところは、ずばり！どこ？



ぼくは、二人で玄関に座ってお手紙を待っているところだと思うな。ほら、ここに「とてもしあわせな気持ちで」って書いてあるよ。



そうかなあ。私は、かえるくんがお手紙書いたって伝えたところだと思うよ。だって、うれしそうに「きみが。」って言っているでしょう。

〈児童の姿〉
考える視点が明確な発問なので、自分の考えをもちやすくなり、理由と共に話すことができています。

【着目させたい会話文を取り上げ、全体で吟味させる】…③



はなこさんは、「きみが。」とうれしそうに言っていると思ったんだね。ほかの人はどう思った？ 「きみが。」には、どんな気持ちが込められているのかな。

「きみが。」は、驚いて言っていると思って音読していただけれど…。うれしい気持ちもあるかもしれないな。



がまくんは、お手紙は来ないってあきらめているから、うれしそうには言っていないと思うな。

【無自覚な解釈を自覚的にさせる問い掛け】…④



たろうさんは、どうして「あきらめてる」って思ったの？



だって、がまくんはずっと「ばからしいこと言なよ」とか「来やしない」って言っているでしょう。言葉遣いが悪いよね。「来ない」じゃなくて「来やしない」って言っているから、もう絶対あきらめてるって感じがする。

〈児童の姿〉
教師に「あきらめてる」と思った理由を問われ、自分が読み取っていたことを改めて考え直しました。その結果、がまくんのせりふである「来やしない」の表現に着目することができ、「来ない」と比較して、その言葉の強さや、そこに込められた気持ちを捉え直すことができました。



確かに…。こんなに機嫌が悪いのに、かえるくん「ぼくがお手紙書いたよ」って言われても、信じられないかもね。私だったら、そんなに急に喜び気持ちになれない気もするなあ。

〈児童の姿〉
友達の発言を受けて、これまでのがまくんの機嫌の悪さに気づき、自分の経験を踏まえながら、もう一度「きみが。」に込められた気持ちを、考え直しています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

音読劇に生かすため読み方を考える場面（第11時）で…①



これまで、がまくんとかえるくんの気持ちを考えてきましたね。自分の考えてきた気持ちが、聞いている人に伝わるような音読の仕方を話し合っていきましょう。

「きみが。」の読み方は、ちょっと疑っている感じに、小さめの声で、「きみが？」って読んだ方がよさそうだね。



賛成！じゃあ、がまくんの「ああ。」って言うせりふはどうしたらいいと思う？ どんな気持ちが込められているのだろう。



〈児童の姿〉
前時までの読み取りを、言語活動として設定した音読劇に生かそうと主体的に話し合っています。学習したことを振り返りながら、着目したい会話文を見付け、実際に声を出してみたり、読む練習を繰り返したりしながら、どのような読み方（気持ちの込め方）が適切なのかを、試行錯誤しながら考えています。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校社会科～

第3学年单元名 市のようなすのうつりかわり(第1／11時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

市の様子の変化(移り変わり)に着目して、問いを見だし、学習問題をつくる。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

【教師の発問】

写真を見て、気付いたことを何でも書きましょう。



昔と現在のまちの写真を見せて、それぞれの写真について気付いたことを言わせれば、学習問題がつけられそうぞ。

【資料】



昔の市の様子



現在の市の様子

【児童の反応】

気付いたこと…？
どんなことでもいいのかな？



昔も車が走っている。



どちらも信号機がある。



違う建物が建っている。

教師が着目する視点を示さなければ、児童は資料のどこに着目すればよいかわからないまま、意見を言うことになります。これでは、変化(移り変わり)を意識した学習問題はつくれず、社会科の深い学びにつながりません。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「社会的事象の見方・考え方」とは

※小学校社会科の各学年の目標においては、「社会的な見方・考え方」を「社会的事象の見方・考え方」と表記しています。

社会的事象を、

位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係などに着目して捉え、

比較・分類したり総合したり、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

→ 視点

→ 方法

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

「問い」と「資料」を工夫して、児童が考えを深められる学習活動を設定しましょう。

社会科は、社会的事象から学習問題を設定し、その解決に向けて調べ、考えたり選択・判断したりして表現し、社会生活について理解したり、社会への関心を高めたりすることが大切な教科です。そのために、問題解決的な学習過程を充実させることが重要です。

教師が教材研究をする際には、その単元で働かせたい「見方・考え方」を確認し、視点や方法に基づいた「問い」を意識することが大切です。「なぜ」「どうして」「いつ」「どのように」のような観点での「問い」を児童にもたせて、主体的な問題解決学習ができるように、単元全体を見据えた構成を考えながら、教師の発問を工夫していくことが重要です。

また、どのような資料にするか、どのように資料を提示するかも重要です。児童が資料のどこに着目して何を読み取るのか、調べたことからどのように考えるのかを意識しながら資料を吟味します。

さらに、児童が自分の考えを深められるような学習活動を構想することも大切です。社会的事象の意味や特色を多角的に考えることができるように、対話的な学習活動を効果的に取り入れるなどの工夫が必要です。

授業を こう変える！

- ・教師が視点や方法を意識した発問を工夫することで、児童に「問い」をもたせ、写真を比較し、交通や建物に着目させたり、変化(移り変わり)に気付かせたりして、考えられるようにする。…[1]
- ・資料を吟味し、市の様子が大きく変わった時期の写真を3枚用意して提示することで、時期による違いに着目して変化(移り変わり)を読み取ることができるようにする。…[2]
- ・個人で調べたり考えたりした後に、班で交流する学習活動を取り入れることで、自分では気付かないような多様な視点に気付くことができ、社会的事象の特色や意味などを多角的に考えられるようにする。…[3]

このような授業にしていきたいと思います！

【視点を意識した発問の工夫】…①



市の大通りの3枚の写真を比べてみると、まちの様子はどのように変わってきているでしょうか。交通や建物の様子に注目して調べましょう。

【変化を読み取らせるための資料提示の工夫】…②



60年前の市の様子



30年前の市の様子



現在の市の様子

道路がだんだんよくなっているよ。
60年前は幅が狭くて歩道がないけれど、
30年前には歩道ができていますよ。
現在は地下道もあるね。なぜ地下道をつくったのかな？

個人で考える



建物の様子が変わってきたね。
60年前は、2階建ての建物が多いけれど、
30年前は建物が密集していて看板もたくさんあるね。現在は大きなビルが建っているよ。何の建物かな？



よいところに気が付きましたね。
交通や建物の違いを比べてみると、まちの様子がどのように
移り変わってきたのかがよく分かりますね。

それでは、気付いたことや疑問について班で意見を伝え合いま
しょう。

〈児童の姿〉

交通や建物などの様子について、時期による違いに着目して比較しながら変化(移り変わり)を捉えています。

教師は、児童が見方・考え方を働かせている発言を取り上げて称賛することで、自覚できるようにします。

【多角的に考えるための対話的な学習活動の工夫】…③

道路の幅がだんだん広くなっているよ。多くの自動車が走るために必要だったのかな？

班で交流する



大きな建物がどんどんできたよ。市に住む人も増えてきたのかな？

市の様子が変わってきたことで、人々の生活の様子も変わってきたのかな？

現在は、高速道路や鉄道も通っているよね。いつ頃できたのだろう？

〈児童の姿〉

自分が気付かなかった視点や多様な考えに触れることで、様々な疑問が出てきます。時期の違いに着目しながら市の様子の移り変わりについて、友達の意見を基に多角的に考えています。



みなさんの気付きや疑問から、単元を見通す学習問題をつくりましょう。

学習問題

わたしたちの市やくらしのようすは、
どのようにうつりかわってきたのだろう。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

単元の「まとめる」場面(第9・10時)で



市の様子や人々のくらしは、どのように
変わってきたのでしょうか。学習したこ
とを基に、年表にまとめましょう。

高速道路や鉄道ができたころ、人口も増えて、
市は大きく発展してきたんだね。



年表

〈児童の姿〉

市の移り変わりや人々の生活の変化に着目して、学習してきたことを総合したり関連付けたりしながら、年表にまとめています。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校算数科～

第5学年単元名 四角形と三角形の面積(第5/11時)※平行四辺形の面積を学習後、三角形の面積を学習する場合

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

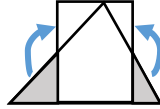
既習の面積の求め方(長方形、正方形、平行四辺形)を活用して、三角形の面積の求め方を考え、説明する。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

全体で話し合う場面で

【教師の発問】

〈求め方1〉



どのように三角形の面積を求めたのかを説明してください。

【児童の反応】

長方形にして求めました。
式は、 $4 \times 3 = 12$
面積は 12 cm^2 になりました。



たろう

〈求め方2〉



いろいろな求め方をみんなで共有したいな。

平行四辺形にして求めました。
 $6 \times 2 = 12$
 12 cm^2 です。



はなこ

〈求め方3〉



平行四辺形にして考えました。
 $6 \times 4 \div 2 = 12$
 12 cm^2 です。



かずや

みなさん、上手に説明できましたね。
いろいろな求め方が分かったので、別の三角形の面積を求めてみましょう。



はなこさんとかずやさんはどちらも平行四辺形にしているけど、形や式が違うな。どうということかな？



るり

かずやさんの「 $\div 2$ 」は何だろう？

様々な求め方を全員で共有することは、児童一人一人が、自分では気付かなかった求め方を理解し、それぞれの求め方を比べて考えを広げたり深めたりできる大切な時間です。しかし、児童が様々な求め方を発表するだけでは、他の児童が友達の説明を理解できたか、考えが深まったかを把握できません。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「数学的な見方・考え方」とは

事象を数量や図形及びそれらの関係などに着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考え、統合的・発展的に考えること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

本時に働かせたい見方・考え方を明確にして、児童が自覚できるよう価値付けることが大切です。

算数科では、問題に出合った子どもたちがどのような視点で目の前の対象を見つめ、見通しをもって筋道を立てて考えているか、統合的・発展的に問題を解決していこうとしているかという学習が大切です。

そのために、授業者が単元や授業の中で働かせたい見方・考え方を明確にしてから授業を行います。

授業中は、児童の発言に含まれていた見方・考え方を板書したり、問題解決のポイントを振り返って見方・考え方を引き出したりする等、働かせたい見方・考え方を児童が自覚できるように価値付けることが大切です。

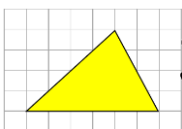
さらに、一つの問題を解決した後、数値を変えたり条件を変えたりして考える習慣を身に付けることは、児童が発展的に考える力を育むための重要な手立てとなります。

授業を こう変える！

- ・本時に働かせたい数学的な見方・考え方を明確にし、児童の多様な求め方を想定しながら授業を構想する。…**[1]**
- ・児童がどのように考えたのかを本人や他者に問い返すことで、児童が自然に(無意識に)働かせた数学的な見方・考え方を引き出す。…**[2]**
- ・児童の発言等から表出したり、授業者が引き出したりした数学的な見方・考え方を板書したり称賛したりして全体で共有し、言語化された見方・考え方を価値付ける。…**[3]**
- ・共通点や相違点に着目させることで、どの考えも既習の図形(長方形、平行四辺形)に変形していることや、移動したり2つ合わせたりして求めていることなどの統合的な考え方ができるようにする。…**[4]**

このような授業にしていきましょう！

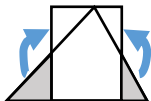
授業の前に 【本時で働かせたい見方・考え方の明確化】 …1



既習の長方形や平行四辺形に変形する（等積変形や倍積変形）見方・考え方を働かせることが重要だな。三角形を半分のところで裏返して平行四辺形にする求め方(2)や、合同な三角形を2つ合わせて平行四辺形にする求め方(3)などは、単元後半の台形の面積の求め方に関連する見方・考え方だから、みんなでしっかり共有したいな。

全体で話し合う場面で 【見方・考え方の表出・自覚化】 …2

求め方(1)



長方形にして求めました。
式は、 $4 \times 3 = 12$ 面積は 12 cm^2 です。



三角形を、どのようにして長方形に変えたのですか。図形を使って説明してください。



平行四辺形の学習を思い出して考えているのがいいですね。【称賛・価値付け】 …3

（板書した図を指さしながら）平行四辺形の面積を求めたときと同じように、小さい三角形の向きを変えて動かして長方形にしました。



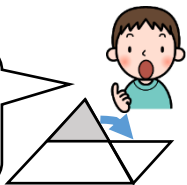
求め方(2)

（式だけ見せて）三角形を2つに分けて平行四辺形にして求めました。
 $6 \times 2 = 12$ 12 cm^2 です。



「三角形を2つに分ける」というアイデアですね。
はなこさんは、どのように三角形を分けたのでしょうか。考えてみましょう。

（実際に図形を切りながら）
三角形の半分の高さで上と下に分けて、上の部分の三角形の向きを変えて動かしています。



求め方(3)

（図だけ見せて）これは、かずやさんのアイデアです。どのように考えたのでしょうか。



三角形を2つ合わせて平行四辺形にしています。



どのような式になるでしょう。ノートに書いてみましょう。
 $6 \times 4 = 24$ と $6 \times 4 \div 2 = 12$ が書かれていますね。正しい式はどれでしょうか。ペアで考えてみましょう。



元の三角形を2つ合わせて平行四辺形にしているね。平行四辺形の半分にする必要があるから2で割る式で、 $6 \times 4 \div 2 = 12$ だね。



【統合的な考え方を鍛える発問】 …4

これらの求め方に同じところはありますか。



長方形や平行四辺形にするために、どんなアイデアがありましたか。

「同じ図形を2つ合わせる」というのは初めて出てきたアイデアですね。

【称賛・価値付け】 …3

長方形や平行四辺形など、公式で求められる図形に変えて求めています。



ある部分を動かしたり、2つの三角形を合わせたりしました。



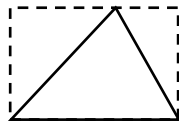
2つ合わせるアイデアを使って他の三角形を求めてみたいな。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

共有した解決方法を活用する場合



（授業者が右の図だけを提示して）
このアイデアで求めるとすると、どのような式になるでしょうか。



〈児童の姿〉

学習を振り返って、本時で働かせた見方・考え方と関連付けながら、統合的・発展的に求め方を考えています。

三角形を2つの直角三角形に分けて、それぞれを2つ合わせて長方形にしているな。



2つ合わせているから、長方形の面積の公式を2で割れば、三角形の面積になるわね。



「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校理科～

第4学年単元名 とじこめた空気や水(第3／6時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

水の性質について追究する中で、既習の内容や生活経験を基に、水の体積や^お圧し返す力の変化と圧す力の関係について、根拠のある予想や仮説を発想し、表現する。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

【教師の発問】



今日の実験は、閉じ込めた水は押し縮められるかです。
まず、予想しましょう。予想したら実験を始めましょう。

実験の前には、予想が必要だと言われているから、
とりあえず、予想させよう。

【児童の反応】



閉じ込めた水は、押し縮められる
と思います。



閉じ込めた水は、押し縮められ
ないと思います。

教師が「予想しましょう」と指示するだけでは、児童は自然の事物・現象の変化を考えるにとどまり、既習の内容や生活経験を基にした根拠のある予想となりません。また、教師が本時の学習課題を一方的に伝えるだけの進め方では、児童が観察、実験を行うことの目的を捉えにくくなるなど、主体的に問題を解決しようとする態度の育成につながりません。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「理科の見方・考え方」とは

見 方 問題解決の過程において、自然の事物・現象をどのような視点で捉えるかということ。

自然の事物・現象について、

「エネルギー」を柱とする領域では、主として量的・関係的な視点で捉えること

「粒子」を柱とする領域では、主として質的・実体的な視点で捉えること

「生命」を柱とする領域では、主として共通性・多様性の視点で捉えること

「地球」を柱とする領域では、主として時間的・空間的な視点で捉えること

ただし、これらの特徴的な視点はそれぞれ領域固有のものではなく、その強弱はあるものの、他の領域においても用いられる視点であることや、これら以外にも、理科だけでなく様々な場面で用いられる原因と結果をはじめとして、部分と全体、定性と定量などといった視点もあることに留意する必要がある。

考え方 問題解決の過程において、どのような考え方で思考していくかということ。

児童が問題解決の過程の中で用いる、比較、関係付け、条件制御、多面的に考えることなど。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

領域における特徴的な視点と、問題解決の過程で用いる思考の方法を働かせている児童の具体的な姿を想定して授業を構想します。

理科では、児童の興味・関心から問題を見だし、予想や仮説を基に実験を行い、結果を整理し、その結果を基に結論を導き出すといった問題解決の学習過程を充実させることが大切です。

そのためには、まず、領域ごとに示されている見方を参考に、児童が主としてどのような視点で学習内容を捉えるかを確認します。また、各学年を通して中心的に育成を目指す問題解決の力を意識しながら、どのような考え方で思考していくかを想定することが大切です。

さらに、問題解決の過程では、理科の見方・考え方を働かせている児童の具体的な姿を見取り、教師が適宜称賛し価値付けることで、学び方のよさを自覚させることが大切です。

授業を こう変える！

- ・ ICT 機器を活用して既習の内容や生活経験を提示することで、根拠のある予想を想起しやすくする。…**[1]**
- ・ 4年生で育成を目指す問題解決の力を意識した問いとすることで、既習の内容や生活経験を基に根拠のある予想を発想させる。…**[2]**
- ・ 既習の内容や生活経験と関連付けた予想や、理科の見方・考え方を働かせている児童の言動を取り上げて称賛したり価値付けたりすることで、学び方のよさを自覚させる。…**[3]**

このような授業にしていきたいと思います！

【既習の内容や生活経験から根拠のある予想を想起させる工夫】…①

4年生で中心的に育成を目指す問題解決の力は、「主に既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想や仮説を発想する」だから、予想させる学習活動を充実させよう。

ICT 機器を活用して、前時までの実験の様子を提示する。

既習の内容：閉じ込めた空気を圧すと体積は小さくなり、縮められる。押し返す力も大きくなる。

生活経験：空気鉄砲、水鉄砲を用いた体験活動や遊び。

【問題解決の力を意識した問い】…②



前回の実験では、閉じ込めた空気を圧すとどうになりましたか？

では、水はどうでしょうか。閉じ込めた水は押し縮められるでしょうか。手ごたえはどうなるでしょうか。閉じ込めた空気の実験結果や、生活での経験を基にして、予想しましょう。



水も空気と同じく私たちの身近にあるものなので、空気と同じようになると考えて、閉じ込めた水は押し縮められると予想しました。また、閉じ込めた水も押し縮めるほど、押し返す力が大きくなると予想しました。



水を満杯に入れたペットボトルは圧せなかった経験があります。閉じ込めた空気とは異なり、閉じ込めた水は押し縮められないと予想しました。



閉じ込めた空気を圧す実験では、空気の様子を図にまとめたけれど、水も同じように図で考えられるかな？

〈児童の姿〉
既習の内容や生活経験を基に、根拠のある予想を発想しています。

【称賛・価値付けによる自覚化】…③



今までの学びや生活の経験を基に予想しているのが、とてもよいですね。

閉じ込めた空気を圧す実験で考えた方法を使って、水についても予想するのは、学びを生かしているということです。



空気を圧す実験では、洗剤の泡が押し縮められて小さくなりました。空気の粒はすき間が空いている感じがするから空気は押し縮められたと考えました。また、空気を圧して洗剤の泡が小さくなると、空気の粒はつまってしまって、それ以上押し縮められなくなったと考えました。それに比べて、水の粒はつまっている感じがするから、水は押し縮められないと予想しました。



目には見えない小さな粒を意識して考えたことは、とても素晴らしいです。「比べる」という方法もとても有効ですね。これからも使っていきましょう。

根拠のある予想がいくつもありませんでした。それらの予想を、閉じ込めた空気の時と同じように安全に注意して、実験で確かめましょう。どのように実験したらよいのでしょうか？

〈児童の姿〉
空気を参考に質的・実体的な視点で捉えて、空気と水を比べながら予想しています。

※この後も、児童が主体的に問題解決の活動に取り組みたいと思えるように、実験方法等について、児童とのやり取りをしながら確認していきます。その際、理科の考え方である「条件を制御する」や、科学的となるための「再現性」、理科の見方である「定性と定量の視点(手ごたえと数値)」を意識した実験となるように言葉掛けするなど、児童が見方・考え方を働かせることができるよう指導を工夫します。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

「実験の実施」と「結果の処理」から「考察」「結論の導出」へつなぐ場面で



「手ごたえは変わらない」と結果を記録した人は、どのような様子からそう記録したのですか？詳しく説明してください。また友達の結果とあわせて、どのようなことが考えられますか？



同じ条件で何度も実験したけど、注射器のピストンの位置は変化しませんでした。また、手ごたえは固いままで変わりませんでした。実験結果を表や図にまとめました。友達と比べると、同じような実験結果でした。空気のとこ異なり、閉じ込めた水は押し縮められないと考えられそうです。

〈児童の姿〉
理科の見方である「定性と定量の視点」、考え方である「条件を制御する」「比較する」を働かせて考察しています。



同じ条件で何回も実験した結果を、数値等を用いて表や図にまとめていて大変よいです。友達の結果と比べて、話し合いながら自分の考えを確かなものにしたことも非常によいことです。

「見方・考え方」を生かした授業づくりの工夫 ～小学校生活科～

第2学年単元名 うごくおもちゃけんきゅうじょ(第8/15時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

遊びや遊びに使う物を工夫してつくる。(思考力、判断力、表現力等の基礎)

こんな授業になっていませんか？

【教師の発問】

今日は、おもちゃづくりの続きをするので、工夫してつくりましょう。

とても楽しそうに遊んでいて活動的だから、きっといろいろ学んでいるぞ。

分からないときには、ひみつを教えてあげよう。

【児童の反応】

もうづくり終わったから、やること
がないな…。工夫ってどうしよう。

おもちゃづくりは終わっているし、
じゃあ、飾り付けをしようかな。

友達に聞くより先生に聞いた方が
早いから、先生に聞こう。

何だか今日は、いっぱい遊べて楽しかったな！



思いや願いが膨らまないままおもちゃづくりの活動に入っているため、思いや願いの実現に向けて児童が夢中になって取り組むことができなくなっています。また、その子なりの気づきを表現し合う機会がないため、気づきの質が高まりにくくなっています。

「見方・考え方」を生かす意識をプラス！

「身近な生活に関わる見方・考え方」とは

身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとすること。

* 見方・考え方を生かしとは、生活科の学習過程において、児童自身が既に有している見方・考え方を発揮するということであり、また、その学習過程において、見方・考え方が確かになり、一層活用されることを示している。他教科等と異なり、「見方・考え方を働かせ」とせず「生かし」としているのは、幼児期における未分化な学習との接続という観点からである。

「小学校学習指導要領(H29)解説 生活編」より

児童が「見方・考え方」を生かす* ためには

試行錯誤や繰り返す活動を設定し、伝え合い交流する場を工夫し、振り返り表現する機会を設け、児童の多様性を生かすことが大切です。

生活科は、自分の思いや願いをもつことから始まる教科です。そのための具体的な活動や体験を行う中で、身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、よりよい生活に向けて思いや願いを実現しようとする生活科固有の学習が行われるようにすることが大切です。そのためには、思いや願いを実現する体験活動を充実させるだけでなく、表現活動を工夫し、体験活動と表現活動とが豊かに行き来する相互作用を意識することも大切です。低学年らしいみずみずしい感性により感じ取られたことを、自分自身の実感の伴った言葉にして表したり、様々な事象と関連付けて捉えようとしたりすることを助けるような教師の関わりを実現していくことも重要です。

授業を こう変える！

- ・自分の思いや願いがさらに膨らむような導入を工夫することで、おもちゃをよりよく動かしたいという意欲を高める。…**[1]**
- ・活動時間を確保することで、自分のおもちゃに自分なりの発想でじっくり関わったり繰り返し試したりできるようにする。…**[2]**
- ・おもちゃの改良に向けた一人一人の多様な思いや気づきを見取り、伝え合い交流する場を工夫することで、新たな活動や行動の筋道を作り出せるようにする。…**[3]**
- ・おもちゃの改良を振り返り、表現する機会を設けることで、無自覚だった気づきが自覚的な気づきとなるようにする。…**[4]**

このような授業にしていきたいと思います！

【自分の思いや願いがさらに膨らむような導入の工夫】…1



それぞれが作りたいたおもちゃができてきましたね。前回、さくらさんがつくった紙コップロケットを見たら、すごく高く飛んでいましたよ。みんなに見せてもらってもいいかな？

すごい！ぼくと同じおもちゃなのに、どうしたらそんなに高く飛ぶのかな。ぼくも、もっと高く飛ばしたいな。



わたしのつくった車もすごく速く走ったけど、この前よりももっと速く走らせたいな。

【活動時間の確保】…2



今日は、みんながつくったおもちゃがもっとよく動くひみつを見つけて、おもちゃを改良していきましょう。

きっと、力いっぱい紙コップを押せば高く飛ぶぞ。



あっ！自転車に乗ったとき、坂道を速く走れたから、坂道で試してみようかな。

あれ？何回やっても高く飛ばない…。紙コップを交換してみようかな。



坂道をすごく急にすると速く走るみたいだけど、すぐに終わっちゃって面白くない。

紙コップを換えたのに、あまり変わらないぞ…どうしてだろう？

〈児童の姿〉
「もっとこうしたい」という思いや願いの実現のために、自分なりの発想でおもちゃとじっくり関わったり、何度も繰り返し試したりしています。

【児童の多様性を見取り、伝え合い交流する場の工夫】…3

はなこさんに聞いてみたらどうかな？



かずやさんの坂道は、ちょうどよく走っていたよ。やらせてもらったら？



ゴムがきついから、ここをグーッと強く押してから離すんだよ。やってみる？

ぼくが作った坂道でやってみていいよ。



あれ？はなこさんのは、ぼくのよりゴムがきつい。あっ！ゴムが2本になってる！ゴムを増やすと飛ぶんだ！



これくらいの坂だと車も速く走るし、面白い！

るりさん、坂道で車を走らせているんだ。面白そうだな。ぼくも、紙コップロケットができれば遊び方を考えてみようかな？

〈児童の姿〉
一人一人の違いを見取り、互いに関わり合うような状況を意図的につくることで、比べたり試したりすることを通して新たな気づきが生まれています。

【振り返り表現する機会の設定】…4



今日の活動で、おもちゃがもっとよく動くための、いろいろなひみつを見つけたみたいだけど、教えてくれるかな？

ゴムを2本にしてみたら、紙コップがこの前よりも高く飛びました。ゴムが強くなったんだと思います。



坂道では、最初は車のスピードが遅いけれど、だんだん速くなりました。

〈児童の姿〉
活動を振り返り、自分なりに感じたことを教師や友達に伝えることで、気づきを自觉しています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を生かしている例

つくったおもちゃで友達と遊ぶ活動の場面（第11時）で



つくったおもちゃでもっと楽しく遊べるように、遊び方を考えてみましょう。



この線まで飛んだら3点、この線まで飛んだら5点のルールにして勝負しよう！



今度は、1年生と一緒に遊んでみたいな。

〈児童の姿〉
つくったおもちゃの遊びの面白さに気付いたり、誰かに伝えたいという思いが芽生えたりしています。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校音楽科～

第4学年題材名 せんりつのとくちょうを感じ取ろう(第5／8時)

教材曲 『陽気な船長』『ゆかいに歩けば』『白鳥/堂々たるライオンの行進』『とんび』

(本題材の学習において、児童の思考・判断のよりどころとなる主な音楽を形づくっている要素：「音色」「リズム」「速度」「旋律」「強弱」「呼びかけとこたえ」)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

『白鳥』の曲想と旋律の特徴や速度との関わりについて気付く。(知識)

こんな授業になっていませんか？

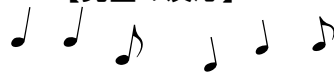
【教師の発問】



今から『白鳥』を聴きます。
今日の聴くポイントは「旋律」です。聴き終わったら気付いたことや感じたことを書きましょう。

曲を聴いて発表させよう。それから、旋律がどんな特徴なのかを確認しよう。

【児童の反応】



いろいろな音があ
ってよく分からな
いわ…。

旋律の特徴って、
何を書けばいいの
かな？



教師から一方的に「旋律」に視点を置いて聴くことを指示していますが、児童は何を意識して聴けばよいのか分からないため、ただ何となく聴く活動になってしまいます。感じたことを伝え合い、教師が曲の特徴を伝える授業では、単なる知識の習得を目指す授業になってしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をプラス！

「音楽的な見方・考え方」とは

音楽に対する感性を働かせ、音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や文化などと関連付けること。

*【共通事項】ア

音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。

『音楽を形づくっている要素』

音色、リズム、速度、旋律、強弱、音の重なり、和音の響き、音階、調、拍、フレーズ、反復、呼びかけとこたえ、変化、音楽の縦と横との関係 など

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

児童が音や音楽に意識を向けられるように学習活動を工夫することが重要です。

音楽科は、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を育成する教科です。音楽に対する感性は、音や音楽の美しさを感じ取るときの心の動きです。それは、児童自身の意思がなければ働かないので、児童が音や音楽に意識を向けられるように学習活動を工夫します。そのためには〔共通事項〕ア*の学習が支えになります。

児童が音や音楽を、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉えるためには、教師は、題材全体を通してどの要素を思考・判断のよりどころとして児童に学習させるのかを、明確にすることが大切です。授業では、音楽を形づくっている要素を聴き取り、感じ取る学習の場を設定し、「どうして」「どのような」「どのように」などの発問で、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりを考えさせます。音や音楽を自己のイメージや感情、身の回りの生活や文化などと関連付けて、音楽表現をしたり音楽を味わったりすることが重要になります。

授業を こう変える！

- ・二つの楽曲を比較して聴く場面を設定し、「どの動物を表した楽曲か」と考えさせることで、児童が音楽に意識を向けて聴くことができるようにする。…①
- ・図形楽譜を使って旋律を指でたどらせる活動を入れることで、音楽を形づくっている要素に着目し、より実感を伴って聴き取ることができるようにする。…②
- ・「自分のイメージはどこから(どの音から)感じたのか」と問い掛けることで、音楽を自己のイメージと関連付けて考えられるようにする。…③

このような授業にしていきたいと思います！

本時までの4時間の授業において、歌唱教材『陽気な船長』『ゆかいに歩けば』を取り扱い、主な音楽を形づくっている要素の「音色」「旋律」「強弱」を思考・判断のよりどころとして学習している。

【音楽に意識を向けて聴かせるようにするための場面設定の工夫】…①



同じ作曲者の二つの楽曲の《はじめ》を聴きます。「白鳥」と「ライオン」、どちらかを表しています。「白鳥」はどちらでしょうか。

1曲目が白鳥！

私も、1曲目が白鳥だと思う。

どうしてそう感じたの？

白鳥が気持ちよく泳いでいる感じがしたから。

私は、2曲目よりも優しい感じがしたから。

みなさんは、「気持ちよく泳ぐ感じ」や「優しい感じ」がしたのですね。

〈児童の姿〉

二つの楽曲を比べて聴く場を設けることで自己のイメージをもつことや楽曲の大まかな雰囲気をつ捉えることができています。



では、もう一度『白鳥』を音で確かめていきましょう。この前歌った『ゆかいに歩けば』のように、旋律を指でたどったり体を動かしたりしながら、1曲目の《はじめ》のところを何度か聴いてみましょう。

チェロ

下がったと思ったら一気に上がった。

ピアノ

ピアノは速いわ。ずっと同じ動きをしている。

どのような様子が思い浮かびますか？

白鳥が大きく羽を広げているようです。

湖の水の様子を表しているようです。

〈児童の姿〉

旋律を指でたどったり、体を動かしたりする活動で、音楽をつ捉えることができています。また着目した音色の旋律をたどることで、実感を伴いながら音楽を形づくっている要素をつ捉えています。体全体で音楽を感じ取るにより、自己のイメージをもつことができています。

【聴き取ったことと感じ取ったこととを関連付けるための問い掛け】…③



旋律の動きや音色から、どんな様子なのかについて思い浮かべることができましたね。では、初めて感じた「気持ちよく泳いでいる」について話し合ひましょう。どの音から、そのように感じたのでしょうか。



ぼくが水の上を白鳥がすうっと遠くへ気持ちよく泳いでいくような感じがしたのは、チェロの旋律の動きからです。始めは、なめらかだったけれど、途中で「ターンタタタ…」と一気に音が上がったので、その時に遠くへ気持ちよく泳いでいるように感じました。

ピアノの音や旋律の動きが湖の様子を表していると思います。気持ちよく泳いでいるように感じたのは、チェロのゆっくりとした旋律の動きからだと思います。

〈児童の姿〉

「どの音からそう感じたのか」の問い掛けにより、自己のイメージと聴き取ったことを関連付けて考えています。また、児童同士で話し合うことにより、児童は見方・考え方を働かせています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

楽曲全体を味わって聴く場面で



最後にもう一度全体を聴きます。自分が好きだなと思うところで手を挙げましょう。なぜそこが好きなのか、理由も考えましょう。

私は、最後の部分が好きです。それは、チェロとピアノの旋律のかけ合いが、ゆったりとした気分になるからです。白鳥が湖の流れに乗りながら遠くへ遠くへと泳いでいくような感じがします。

〈児童の姿〉

これまでの活動を生かし、主な旋律を曲全体を通して着目させることで、構成をつ捉える活動に主体的に取り組むことができています。音楽全体を味わって聴くことにつながります。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校図画工作科～

第4学年題材名 空想のいきものを絵に表す(第1 / 4時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

想像したことや見たことから表したいことを見付け、いろいろな形や色を試しながらどのように表すかについて考える。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

今日は、空想のいきものを画用紙に描いていきますよ。まずは、想像を膨らませて、どんないきものにしようか考えてみましょう。



【教師の発問】

いきものの手や足をどうすればよいか分からないなあ。

どんな顔にすればよいか分かりません。

教科書で見たように、手は〇〇のような形にして、足は△△みたいな形にしてみたらどうかしら。顔は、黒板に貼った作品のように、目や耳を大きく描いたら、想像のいきものらしくなると思うわ。

【児童の反応】

児童が考えるべきことを、教師が一方的に教えてしまつては、表したい思いを広げたり、想像を膨らませたりすることなく、単に言われた(見た)ように絵に表すだけの活動になってしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「造形的な見方・考え方」とは

感性や想像力を働かせ、対象や事象を、形や色などの造形的な視点で捉え、自分のイメージをもちながら意味や価値をつくりだすこと。

*〔共通事項〕(1) 第3学年及び第4学年

- ア 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じが分かること。
- イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

自分の感性や想像力を十分に働かせる学習活動を展開することが重要です。

図画工作科は、児童が視覚や触覚などの様々な感覚を働かせながら、形や色などに能動的に関わっていく教科です。感性は、様々な対象や事象を心に感じ取る働きであるとともに、知性と一体化して創造性を育む重要なものです。同様に、想像力も全ての学年の学習活動において重要なものです。そのため、活動の主体である児童が、自分の感性や想像力を十分に働かせることができるような学習活動の設定や指導の工夫をします。

また、〔共通事項〕*で示している内容は、形や色などを活用したコミュニケーションの基盤になるものであるとともに、表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせている児童の具体的な姿です。そのため、自身の指導を〔共通事項〕の視点で見直し、指導内容や方法、指導上の配慮事項などを検討することが大切です。

授業を こう変える！

- ・参考資料の提示の仕方や発問を工夫することで、空想のいきものへの関心を高め、形や色などを基に児童それぞれが思いを広げ想像を膨らませていけるようにする。…1
- ・考えたことを基に話し合わせたり、「言葉」で考えを整理させたりすることで、児童が表したいことを見付け、表したい思いやイメージを明確にしていけるようにする。…2
- ・材料に触れ、手を動かしながら考える場面を設けることで、児童が形の感じを捉え、イメージを具体化していけるようにする。…3

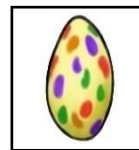
このような授業にしていきたいと思います！

【参考資料等の提示の工夫】…1

さて、今から不思議な世界に住むいきものを見せますよ。でも、見せるのはその卵の絵です。



とっても、カラフルな卵ですね。



?

では、この卵から、どんな形や色のいきものが生まれると思いますか。

卵のように、いろいろな色をしたいきものだと思います。



背の高いいきものじゃないかな。



どうしてそう思いましたか。

卵が長細い形をしているからそう思いました。



今のような発想を大切に、これから考えていきましょう。

〈児童の姿〉
空想のいきものについて、関心を寄せるとともに、教師とのやり取りの中で児童それぞれが、想像を膨らませています。

【イメージを言語化させ、表したいことを見付けさせるための工夫】…2

みなさんが考えるいきものは、どんなところに住んでいますか。また、どんな特徴がありますか。



宇宙に住んでいるいきものにします。それと宇宙を飛ぶためにきれいな模様の羽を付けようと思います。



宇宙とは面白いですね。思ったことや考えたことを近くの人と話しましょう。



それから、考えたことや話し合って気付いたことについて、その言葉を書き留めておきましょう。考えが整理できるし、新しいアイデアにつなげることができますよ。

〈児童の姿〉
思ったことや考えたことを基に、言葉で伝えたり書いたりすることで、表したいことを明確にしています。

【児童が形を捉え、イメージを具体化できるようにするための場面設定】…3

見たり話したりする中で、イメージがわいてきたかな。もし、まだどんないきものにするか悩んでいたら、粘土を使って形を変化させながら、考えてみてみましょう。



体の一部の形がまだ思い浮かばないから、試しに粘土でつくってみようかな。



いきもののポーズを、粘土を使って考えてみるぞ。



〈児童の姿〉
材料を扱う感覚や行為を通して、形を捉え、表したいイメージを具体化しています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

題材終盤での鑑賞の場面（第4時）で

互いの作品のよいところを、見たり話したりしてたくさん発見しましょう。



この作品は、羽の模様がとてもきれいだね。



その作品は、いろいろな形のパーツを組み合わせて描かれていて、面白いね。

〈児童の姿〉
造形的な視点をもって互いの作品を鑑賞し、形や色などの特徴に気づき、よさを味わっています。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校家庭科～

第6学年題材名 クリーン大作戦(第2／4時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

清掃の必要性が分かり、適切な仕方を考える。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

前回、教室や水道の写真を撮って、汚れがあることを知ったから今日は、掃除の計画を立てよう。その次は掃除の実践だな。

【教師の発問】

教室や水道には、たくさんの汚れがありましたね。今日は掃除の計画を立てましょう。



【児童の反応】

教科書に掃除の手順が書いてあったから、それを参考にすればいいのかしら。

毎日掃除をしているのに、計画を立てるのか…。面倒だな。



教師から一方的に課題を提示しているため、児童が掃除することに意欲的に取り組むことができません。これでは、掃除のどこに着目して考えればよいか分からず本時のねらいに迫る授業になりません。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「生活の営みに係る見方・考え方」とは

家族や家庭、衣食住、消費や環境などに係る生活事象を、協力・協働、健康・快適・安全、生活文化の継承・創造、持続可能な社会の構築等の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。

「生活の営みに係る見方・考え方」における内容と視点



主として捉える視点は大きい丸で示している

中央教育審議会「家庭・技術・家庭ワーキンググループにおける審議の取りまとめ」より
(H28年4月)

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

日常生活を見つめさせ生活に生かす課題を設定し問題解決的な学習活動を行いましょう。

家庭科は、自立し共に生きる生活を創造する教科です。児童が日常生活の中から問題を見いだして課題を設定し、その解決に向けて様々な解決方法を考え、計画を立てて実践し、その結果を評価・改善し、さらに家庭や地域で実践するなどの一連の学習過程を効果的に取り入れることが、資質・能力の育成につながります。「生活の営みに係る見方・考え方」に示される四つの視点は、すべての内容に共通する視点であり、相互に関わり合うものです。

したがって、教師は、取り上げる内容や題材構成等によって、いずれの視点を重視するのかを適切に定めることが大切です。そして、重視する視点に基づき、「なぜ」「いつ」「どのように」のような問い掛けから、児童が生活事象のどこに着目して考えるのかといった学習の方向性を導くことができます。また、対話的な学習活動を効果的に設定し、児童が多角的に考え、自分の考えを深めることができるような学習活動を設定することも大切です。

授業を こう変える！

- ・「どうして汚れがあるのか」と問い掛けることで、日常生活の中から問題を見だし、課題の設定へつなぐようにする。…**[1]**
- ・課題の解決に向けて、対話的な学習活動を取り入れることで、多様な視点から多角的に考え、解決方法を工夫できるようにする。…**[2]**
- ・「環境に配慮した工夫」を考える問いを設けることで、別の視点から問題を捉え、更によりよい方法を工夫できるようにする。…**[3]**

このような授業にしていきたいと思います！

【生活を見つめ課題設定へつなぐ工夫】…①



みんなが撮影した写真から、教室や水道の周りには様々な汚れがあることが分かりましたね。毎日掃除をしているのに、汚れていましたね。このままでいいですか？

【健康・快適・安全】

このままだと、体によくないよね…。



こんなに汚れていたら新しい一年生が来るのに恥ずかしいわ。



〈児童の姿〉
汚れの現状を[健康・快適・安全]の視点から考えています。



では、どうして汚れがあるのでしょうか？

テレビの下に綿ぼこりが多かったな。見えていない場所だから、ぼこりが取れていないのかもしれない。



たわしだけでは、水道周りの石けんかすまで落とせないからだと思う。



〈児童の姿〉
日常の掃除の方法から、問題点を見いだしています。

【対話的な学習活動の工夫】…②



綿ぼこりや石けんかす、テレビの下や水道周りなど、汚れや場所に合った掃除の方法がありそうですね。では、どうしたらきれいになるでしょうか？ 班で考えてみましょう。

【健康・快適・安全】

ぼくたちの班は水道周りだね。水って、結構はねているんだよね。水道の周りにもはねているから驚きだね。

班で意見交換する



私の家では古い歯ブラシを使っているわ。細かいところを磨きやすいの。

石けんかすをアクリルたわしを使って落としてみたらどうか。家でやっているよ。

これ、見て。石けんかすの落とし方、このサイトに載っていたよ。結構簡単に落ちるんだね。

〈児童の姿〉
自分が気付かなかった視点や多様な考えに触れることで、多角的に考えています。普段の掃除で落ちなかった汚れに着目しながら、どうしたら汚れが落ち、清潔になるのか、解決方法を工夫しています。

【別の視点から捉えさせる工夫】…③



一つの汚れでもいろいろな落とし方があるようですね。古い歯ブラシを再利用するといった環境のことを考えた工夫もあり、素晴らしいですね。そのような工夫がほかにもありますか？

【持続可能な社会の構築】

洗剤を使わないで、酢を薄めた液を使うこともできるみたいだよ。できるだけ洗剤を使わないことも環境のことを考えた方法だと思う。



水の量を少なくすることも当てはまるよね。いつもの掃除では、水道の水を出しっぱなしだったから、必要な量だけ出すことが大切ね。



〈児童の姿〉
環境に配慮した工夫という投げ掛けにより、新たに「持続可能な社会の構築」の視点からよりよい方法を考えています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

題材の振り返りの場面で



それぞれの班で担当した場所の発表を聞きましょう。掃除をする前とした後の写真を見て比べてみましょう。

ぼくたちは、廊下を掃除しました。掃除をする前は、写真のようにぼこりが端の方にたまっていました。工夫したことは、掃除機を使ったことと手順を考えたことです。掃除をしている間にぼこりが舞うと考えたので、まずほうきで掃いてから、最後に掃除機を使って吸い取りました。



〈児童の姿〉
実践前と実践後の写真を見比べ、主に「健康・快適・安全」の視点から、問題を解決した方法について振り返っています。日常生活に必要な知識が質的に高まっています。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校体育科～

第6学年単元名 陸上運動 短距離走・リレー(第6／8時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

バトンパスのポイントに着目し、自己や仲間の動きの変化や伸びを見付けたり、考えたりしたことを他者に伝える。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

【教師の発問】

チームでよい点や改善点をお互いにアドバイスし合いながら、バトンパスの練習をしましょう。



お互いに見合い・教え合い・励まし合うようにすれば、対話的な活動が活発になり、協力して取り組めるはず。

【児童の反応】

リレーをしながらアドバイスするのは難しそう。よい点や改善点ってどんなことに気を付けて見ればいいのか？



走るのが苦手な人は、あまり練習しようとしなないんだよな…。



リレーは苦手だな。チームに迷惑をかけないか不安だな…。

バトンパスをする人の「何に」着目すればよいのかポイントを焦点化していないので、アドバイスが具体化されず、活動が活性化されません。また、「走る」「見る」の役割分担を明確にしないと、運動量や学びの個人差が大きくなってしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「体育の見方・考え方」とは

※保健領域にも、「保健の見方・考え方」があります。

運動やスポーツを、その価値や特性に着目して、楽しさや喜びとともに体力の向上に果たす役割の視点から捉え、自己の適性等に応じた「する・みる・支える・知る」の多様な関わり方と関連付けること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

「運動の特性」に応じた楽しさや喜びを味わわせるとともに、「見合い・教え合い・励まし合い」を活発にする場面設定が大切です。

体育科は、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現する力を育むことが求められる教科です。児童が「友達と協力して記録を伸ばしたり点数を取ったりするのは楽しい」「新しい技ができてうれしい」などと、運動の特性に応じた楽しさや喜びを実感できることが大切です。また、運動を「する」ことだけでなく、「みる」ことで楽しむ、用具の準備や後片付けなどで運動を「支える」こと、運動がもたらす効果を「知る」ことなど、自分の適性に応じた多様な関わり方について考えることも必要です。

そのためには、教師が各種の運動の特性に着目し、それぞれに応じた楽しさや喜びを味わうことができる授業づくりを意識する必要があります。そして、児童が運動やスポーツへの多様な関わり方を見いだせるよう、「見合い・教え合い・励まし合い」ができる場面設定をすることも大切です。運動との多様な関わりを通して、運動の楽しさや喜びを味わわせ、「運動が好き、大切だ」と実感できる学習活動を行っていきましょう。

授業を こう変える！

- ・バトンパスのポイントを「バトンをもらう人が走り出すタイミング」に焦点化することで、児童がリレーの特性に着目した具体的なアドバイスを考えられるようにする。…^[1]
- ・役割分担を明確にし、「見合い・教え合い・励まし合い」の場面を確実に設定することで、リレーに多様な関わり方ができることに気付けるようにする。…^[2]
- ・仲間の考えや取組を認め合う「アドバイスタイム」を設け、様々な関わり方で友達と仲よく運動ができた楽しさを児童の発言から引き出すことで、「体育って楽しい」と実感できるようにする。…^[3]

このような授業にしていきたいと思います！

【「リレーの特性」に着目させる発問】…1



リレーで目標記録の達成に向けて、記録を縮めるためには、どうしたらよいでしょう？

いつもバトンパスでスピードが落ちてしまうよね。バトンパスの上手な方法を考えてもいいんじゃないかな。



バトンをもらう人のスピードが、渡す人とぴったり合えば、記録は縮まるのではないかと思います。

〈児童の姿〉

教師が、リレーの特性についての視点を与えることで、児童はバトンパスのポイントに着目して考えるようになります。バトンパスを改善することで、記録を縮めることができると考え、具体的な意見を出し合うことができます。



その通りですね。バトンパスのポイントはいくつかありますが、今日はバトンパスのスピードが落ちないように、バトンをもらう人が走り出すタイミングを意識しましょう。

【「見合い・教え合い・励まし合い」の場面の設定】…2



今日はチームでバトンパスの練習をします。学習カードにあるように、ランナーとコーチの役割を全員が経験します。1回目の練習が終わったら、アドバイスタイムを3分間とりますね。コーチ役の人たちは「バトンをもらう人が走り出すタイミング」をよく見て、アドバイスしましょう。

1回目のほとんどの役割は、タブレット撮影だな。リレーで走るの苦手だけど、バトンパスの様子がよく分かるように撮影すれば、チームのみんなの役に立てそうだ。がんばろう！



タブレット撮影



アドバイス

そうか。コーチ役の時も「バトンをもらう人が走り出すタイミング」を意識してアドバイスすればいいのね。タブレットの映像を何度も確認すれば、私にもできるような気がするわ。

役割分担があるから、走るのが得意かどうか関係なく、みんなでアドバイスし合って練習できるぞ。これなら記録が縮まりそうだな。



1走

「リレー」チーム練習学習カード

6年 組 番 氏名

メンバー	
A	B
C	D

〇チーム練習の役割分担

	ランナー		コーチ	
	1走	2走	タブレット撮影	アドバイス
1回目	A	B	C	D
2回目	D	A	B	C
3回目	C	D	A	B
4回目	B	C	D	A

〈児童の姿〉

教師は、全員がランナーとコーチの役割を経験できるように分担を決め、「見合い・教え合い・励まし合い」の場面を設定します。児童は、「する」だけではない役割があることを知り、「みる・支える・知る」の関わり方からも「バトン」をもらう人が走り出すタイミングを考えようとしています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

本時の「アドバイスタイム」の場面で

【運動の楽しさを実感させる活動の設定】…3

タブレット撮影



スピードが速くて撮るのが難しかったけど、走り出すタイミングが分かるように、二人の動きに注目して撮ってみたよ。

2走



タブレットの撮影が上手だから、映像を見て確認しやすいわ。これなら、バトンパスの様子がよく分かるわね。ありがとう。

アドバイス



映像を見ると、走り出すタイミングが少し早かったね。今度は1走が「Go」と言うタイミングを遅らせたらどうかな？

1走



スピードが落ちていたのは、走り出すタイミングが原因かもね。「Go」の掛け声は、どのあたりで掛ければよいのか、もう一度、映像を見て考えようよ。



2走が走り出すタイミングがどうして早くなってしまったのか、みんなで協力しながら考えることができましたね。次は記録が縮まりそうですね。

〈児童の姿〉

バトンパスのポイントを焦点化したことで、それぞれの立場から考え、具体的にアドバイスを出し合っています。また、教師が児童のよい点を認め、仲よく運動ができたことを実感させることで、運動の楽しさを味わうことができます。これらが、「運動が好き」「次もやりたい」という思いにつながります。

「見方・考え方」を働かせる授業づくりの工夫 ～小学校外国語科～

第5学年单元名 欲しいものを伝え合おう(第7／7時)

《本時の目標(育成を目指す資質・能力)》

自分や相手のこと及び身の回りの物に関する事柄について、簡単な語句や基本的な表現を用いてその場で質問をしたり質問に答えたりして、伝え合う。(思考力、判断力、表現力等)

こんな授業になっていませんか？

言語活動

友達に欲しいものを尋ねる言語活動があれば、今日のねらいは達成できるぞ。



今日は「カード集めゲーム」をしましょう。じゃんけんで負けた人は、**What do you want?**と尋ね、勝った人は、**I want ～**でカードを一枚もらいましょう。たくさん集められるのは誰でしょう。

【児童のやり取り】

(負け) **What ... do you ... want, Hanako?**



Taro

(勝ち) **I want a dog.**



Hanako

言い方がよく分からないけど、じゃんけんに勝って、たくさんカードをもらえばいいのかな？



教師が英語表現を示すことで、児童は発話しやすくなるかもしれませんが、しかし、児童が「どのように言えば伝わるのだろう」と考える場面が少なくなってしまう。また、カードを集めることが目的になっているので、英語でのやり取りに意欲的に取り組めない児童も出てしまいます。

「見方・考え方」を働かせる意識をフラス！

「外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方」とは

外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること。

児童が「見方・考え方」を働かせるためには

目的や場面、状況を意識して、「必然性」のある言語活動を設定しましょう。

小学校における外国語科では、コミュニケーションを図る素地や基礎となる資質・能力を、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して育成することが重要です。

言語活動とは、「実際に英語を用いて互いの考えや気持ちを伝え合う活動」のことです。教師が言語活動を設定する際に、「必然性」を意識することが大切です。話すことの活動ならば、「だれ」に話すのか(相手意識)、「なぜ、どのような場面や状況」で話すのか(目的意識)、などを考えて設定しましょう。そうすることで、児童のコミュニケーションをとることに対する意欲が高まり、外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせることができます。

また、言いたいけれど言えなかった言葉や表現は、記録させたり、既習表現で考えさせたりする時間を設定するなど、児童が自分の考えを整理して形成することができるような学習活動を設定することも大切です。

授業を こう変える！

- ・やり取りをする目的を明確にして場面や状況を設定し、コミュニケーションの必然性を生み出すことで、児童のやり取りへの意欲を高めて、自分が本当に言いたいことや聞きたいことを話せるようにする。…①
- ・言いたいけれど言えなかった言葉や表現を、やり取りの途中で友達から学んだり表現等を確認して考えを整理したりする時間を確保することで、本当に言いたいことを加えて、内容を深められるようにする。…②

このような授業にしていきましょう！

【コミュニケーションの必然性を生み出す言語活動の設定】…1

今日は今までに学習した表現を使って、友達の欲しい物を探ね合う言語活動を設定しよう。



欲しい物を探ねたくなる時は、どんな場面だろう…。
そうだ！誕生日に欲しい物を探ね合っ、
「欲しい物ランキング」をつくろう。

導入の場面で



Hello, everyone. It is July 1st. My birthday is July 5th. I want a new bike.
What do you want for your birthday?

野球のグローブ！



I want a dog!



児童のやり取りの場面で



Hi, Taro. What birthday present do you want?

I want グローブ. I like …baseball.

You like baseball. Me too.

What … birthday present … do you want?



やり取りの途中で

【言えなかった表現等を確認する場面や時間の確保】…2



英語で言いたかったけれど、言えなかった表現（言葉）はありましたか？

野球のグローブは、英語でも「グローブ」という発音ですか？



グローブという発音は、英語では「地球儀（globe）」のことです。



野球のグローブって、発音はグラブ（glove）じゃなかったかな。

なんか聞いたことある。それじゃあ、
I want a glove（グラブ）。でいいんだね。



That's right! それでは、言えるようになった表現（言葉）を使って、やり取りを続けましょう！

〈児童の姿〉

自分が言いたかったけれど言えなかった表現だからこそ、一生懸命考え、友達のアドバイスや既習表現からどのように表現するか思考しています。

ほかの学習場面で「見方・考え方」を働かせている例

スモールトークの途中で



友達が使っていた表現で、使ってみたくと思った表現はありますか。



はなさんは、You like ～. とか Me too. を使っていました。ほくも使いたいです。

私は、今までに習った That's nice! とか Really? も使ってみたくです。



そうですね。習った表現を使っていくことは素晴らしいですね。皆さんも付け加えて言ってみましょう。

〈児童の姿〉

活動で使った様々な表現を子どもから表出させることで、相手が使用した表現を再確認することができます。また、「自分も使ってみよう」と意識し、考えを再構築します。

資質・能力を育む授業づくりのために

単元や題材及び授業の目標(育成を目指す資質・能力)を明確にした上で

いつもの授業に、**子どもたちが「見方・考え方」を
どのように働かせるのか**
という意識をプラス！



◎その教科の「見方・考え方」を確認しましょう。

◎教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせられるよう、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかを明確にして授業を構想しましょう。



◎「見方・考え方」を働かせている子どもの姿を想定しましょう。

そのために、次のことを大切にしていきましょう。

単元や授業を構想する段階で

- 「見方・考え方」を働かせながら、問題を解決していく学習過程にする。
- 「見方・考え方」を働かせるような問いや資料を準備したり、場面や活動を設定したりする。

授業中の見取りで

- 子どもたちが「見方・考え方」を働かせていることを自覚させるために、称賛や価値付けなどの働きかけをする。

「見方・考え方」は、各教科等の学習の中で働くだけでなく、大人になって生活するにあたって重要な働きをしていくものとなります。日々の授業で鍛えられた「見方・考え方」を自在に働かせながら、世の中の様々な物事を理解し思考し、よりよい社会や自らの人生を創り出していける子どもたちを育てていきましょう。